

和の光

宝塚市立西谷中学校



ある少年の話

匿名希望

ここでは、ある少年の話をしたいと思います。

中学校での3年間というのは、本当にいろいろな経験をし、多くの事を感じます。楽しいことも、つらいことも、悔しいことも……。この少年も中学生時代に人生を決めるような大きな夢・目標を持ちました。

「将来、先生になりたい！」と思って目標にしたのは中学2年生の時でした。実は、その時は中学校の数学の先生になろうと思っていました。理由は、中学1年・2年とテストの点数が一番良かった教科が数学だったからという単純な理由からです。

そこで少年は、先生になるためには、教員採用試験を受けて合格しなければならない。教員採用試験を受けるには、教員免許が必要。そのためには大学に行って教員免許をとる。そのためには高校に行かなければならないと逆算で考えました。

そして、最初の難関は、高校受験！家の近くにある高校に何とか合格して高校生活を送るのですが、どうしても数学の成績が伸びず……。なかなか厳しい現実が待ち受けていました。高校は3年間で卒業したのですが、結局、浪人が決まり2年が過ぎました……。

そして、やっとある大学の理工学部に受かり、「数学の教員免許を取得し、数学の先生だな。」と覚悟を決めていたときに、地方大学教育学部のスポーツ科の追加合格の電話がありました。

結局選んだのは、地方の大学に行き体育の教師を目指すことでした。実は、その少年は中学校時代から始めた集団スポーツ（バレーボールです）の魅力にはまり、中学高校と部活ばかりしていました。仲間と同じ目標に向かって練習し、汗を流すことに毎日明け暮れていました。この集団スポーツの魅力をぜひ多くのみんなに伝えたい！スポーツの素晴らしさを教えたい！と考えるようになったのが、体育の教師を目指すことに代った理由の一つです。もちろん、大学の時も社会人になってからもバレーボールはずっと続けています。そして現在にいたる……。

もしかしたら、「5分間走したら頭にも血液がめぐり、頭の回転が速くなる！」との理由で、授業の前に5分間走してから因数分解！二次関数！確率！の授業をやっていたかもしれませんね？

みんなに伝えたいことは3つあります。

「目標を持つこと！」

目標を持つと、くじけそうな時に、もう一度頑張れる勇気をくれます。もう一度チャレンジしようと思う強い気持ちが出てきます。

「好きなことをやり抜くこと！」

好きなことってやっていてワクワクしますよね。そのワクワクと集中力はさらなる活力になります。（好きなことばかりってわけにはなかなかいかないのですが……。）

「人生は成功より失敗の方が多いということ！」

このことを知っておくと、ちょっとしたミスではへこたれなくなります。1つの成功の影には、たくさんの試練・失敗があります。大きな壁を乗り越えてこそ、その成功が意味あるものになります。乗り越える力が、次のステージで必ず活かされます。ある少年の人生も失敗ばかりです。

中学生生活を意味あるものにするために、何事にもチャレンジ！！

■仲間と共に学ぶことの楽しさ（1年生 道徳「ことばが持つ力」）



1年生の道徳の授業を紹介します。「友達を遊びに誘って断られた時」自分ならどのような言葉を返すのか等、場面を設定して、「最上位・最下位の言葉」でどのような返答をするのかロールプレイングが行われていました。

【場面設定】

シチュエーション①～友達を誘って断られたとき～

シチュエーション②～お互いの不注意で相手とぶつかったとき～

シチュエーション③～サッカーをしていて、決定的なチャンスにシュートを外してしまったとき～をしました。

それぞれが俳優になったように演じ、楽しそうにロールプレイングが進んでいました。普段、乱暴な言葉を使わない子は、最下位の言葉を使うことにためらい、また**最下位の言葉を掛けられてしまった時は、しんどい思いをしたようでした。**一方で、**最上位の言葉を掛けてもらえると次がんばろう、とか、仕方ないね、と感じたそうです。**（裏面に続く）

学校や社会において、子どもたちはたくさんの人と接します。西谷中を卒業し、それぞれの進路へ進むこととなりますが、その進路先では、気心の知れた友達ばかりではありません。**新たな友達づくりをすることが必要になるはず**です。その時に、相手の気持ちを察しながら声をかけたり、行動したりする力が必要になると思います。そのためにも、今回の授業は役立つことと思います。

■仲間と共に学ぶことの楽しさ（2年生 道徳「違いを認め尊重する」）



2年生の道徳の授業を紹介します。「ジコチュウ」という教材を使って授業が進められていました。「ジコチュウ」つまり「自己中心的」ということです。この言葉を聞いて、もう何年も前に私が担任をしていた頃、子どもたちの会話に「●●くんはジコチュウやから困まるねん」といった言葉があったことを思い出しました。教材を皆で読んだ後、担任の先生からの発問に対して、みんなで意見を出し合いながら、和やかな雰囲気の中で授業が進んでいました。本時の学習の目当て「考え方や立場の違いを尊重し合うために必要なことは何だろう」も明確に示されており、**子どもたちは「めあて」に向けた話し合いを通して、他者の考えをもとに、自分の考えを深めたり、見直したりすることができたと思います**。新学習指導要領では、教師中心の従来型の授業ではなく、子どもたちが話し合うことや、協働しながら最適な解を求める授業への転換が求められています。今日の授業では、まさにこれからのあるべき授業の様子が見られました。私は、若手の先生に学ぶことの大切さを改めて感じました。



■仲間と共に学ぶことの楽しさ（3年生 道徳「進路を切り拓く」）



ある先生が3年生の授業で、「みなさんは受験生ですから…」と話すと、「先生、私たちは確かに受験生ですが、いつもいろんな人に受験、受験と言われることにプレッシャーを感じます。もっと違った言い方ってないのですか？」と言われたそうです。その先生は、「わかりました、しばらく時間をください。私なりの言葉を考えてみます」と返事をし、帰りの車の中でひらめいた言葉が「**チャレンジャー**」だそうです。次の授業で子どもたちに**「受験生と呼ぶことはやめます。皆さんはチャレンジャーです」**と話したら、生徒から**「先生、ナイス」**と声があがったそうです。

この話を聞いて、私は嬉しく思いました。確かに私も担任をしていた時には普通に「君たちは受験生だから…」と話していました。この先生は、しっかりと生徒のつぶやきを受け止めて、自分自身で「チャレンジャー」ということばを見つけ出しました。**夢に向かってチャレンジする。「チャレンジャー」素敵な表現です。**

さて、前置きはこれぐらいにして、3年生の道徳の授業を紹介します。3年生は、中学校卒業後の進路について学んでいます。今回の授業では、「私立高校と公立高校の違い」についてプリントを使って学習が進められていました。

「専願」、「併願」、「単願」、「特色選抜」など初めて聞く言葉も多いようで、担任の先生の説明を聞きながら、プリントに色ペンで線を引いていました。また、**進路について自分の考えを保護者の方と話し合っていくことの大切さも話されていました。**

